

## 財務省ODA担当主計官は、もっと勉強せよ！

数年前、財務省の主計官3名が「予算が成立した、今の時期暇になったからODA関係先を廻り勉強したい。」との主旨で私を訪ねてきた。

質問には応じたが「勉強したい気持ちが有るなら、皆さんが付けた予算が適切に消費されているか、検証するのが大事ではないか？」と進言した。

その後、主計官チームが途上国を視察したと云う話は聞かない。

相変わらず、JICA・外務省の職員OBや調査員が、限られたコンサル企業に就職し、JICA・外務省は案件の審査を丸投げしている。

いい加減な審査の実態は、私自身が審査員を務めていたので誰よりも詳しい。彼らの審査員の経験、知識が高いとは言えない。

外務省案件（JICA）は、採用した10の案件中、1～2件成果を出せば上出来だ、と思い込んでいるとさえ思える。

財務省、主計官諸氏に勧める。ODA案件は莫大だ！丸投げ受託を数年続けて、莫大な利益、数倍にも増加した職員、JICA, 外務省に巣くう癒着コンサル企業を、先ず調査すべきだ。

審査に永年携わられている尊敬する大野泉先生！

1割か2割の成果でいいのですか？ 私は辞任の際「数年先には実態は明らかになるよ！」と、忠告しましたよね。

この件は、黙視する気でいましたが、ウクライナの人々の一途さを知り、我が国のだらしなさが悲しくなったのです。

皆さんが審査したために途絶えてしまった案件、幾つでも指摘しますよ。

令和4年3月25日

小田 兼利